

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

- * イタリア地域精神医療ツアーに参加して

東京農業大学 元教授 岩本 純明

- * 2019年第13回イタリア地域精神保健視察研修ツアーを実施して

事務局 仁木 守

- * 事務局からのお知らせ

○ リフレッシュセミナーin 東京 2019のご案内

～故仁木美知子さんを偲んで～

- * イタリア地域精神医療ツアーに参加して

東京農業大学 元教授 岩本 純明

私は、東京農業大学を一昨年に退職しましたが、教員期間中の主な研究テーマは、日本や開発途上国の農業・農村開発問題でした。今回のツアーでは、地域精神医療に最も縁遠い参加者でした。地域精神医療への関心は、東京農業大学に赴任した際、同僚教員からの誘いで引き出されました。10年ほど前のことです。障がい者の治療や自立支援との関連で、農業をどう位置づけたらよいか、という問題意識です。関連文献を読むほか、国内の先進事例を現地で学ぶことも続けてきました。今回のツアーに参加された長野敏宏先生の活動拠点である愛南町にも、2度ほど訪問させていただきました。

こうした経緯の中で、バザーリア改革に始まるイタリアの精神医療改革についても、いくつか文献を読みましたが、文献から得た情報だけでは「整理されすぎた理解」になりがちで、現地の具体的な動きを確かめたいとの思いが強くなりました。今回、ようやくその願いが叶ったわけです。多くを学びましたが、記憶が薄れないうちにその要点を整理してレポートに代えます。

(1) 精神医療改革の経験継承：バザーリアのイニシアティブで始まったイタリアの地域精神医療改革も、ほぼ40年を経過しました。

今日のイタリア地域精神医療の担い手は、すでに第3世代に移行しているわけです。その意味で、バザーリア改革時の運動を直接体験されたダルコ・ブルチ両医師のお話を伺うことができたのは、大変幸運なことでした。お二人とも第一線からはすでに引退されていますが、後継者たちの相談役など、改革の継承者としての役割を担っておられました。穏やかな語り口に時折混ざる「熱い言葉」からも、国を挙げて精神医療改革に取り組んだ当時の熱気を想像すること



ダルコ先生の精神病院跡地説明



ブルチ先生のレクチャー

ができました。「24 時間、いつでも利用できるという体制整備」、「患者が必要とする限り一生寄り添うという姿勢」など、長年にわたって構築してきたシステムや医療姿勢についても、お二人の口から発せられると説得性をもって受け止めることができました。

(2) 地域精神医療の地域的「個性」:改革後のイタリア精神医療制度は、州内数カ所に設置された精神保健センターを核とし、夜間・緊急時は総合病院の救急科で対応するのが基本的な特徴です。しかし今回訪問した3地域は、こうした共通性のもとで地域的な「個性」を同時に保持し続けているらしいことも判りました。その歴史的要因についてはこれから勉強しなければなりません。南ヴェローナ地域では、大学の医学部教育と地域精神医療とが密接な連携のもとに運営されているのが印象的でした。むしろ、教育訓練と治療との両立は容易なことではないでしょうが、医師の意識変革がなによりも大切な精神医療の分野では、現場での実践的教育は極めて重要だと思いました。

(3) 地域精神医療スタッフの資格制度:イタリア精神医療分野では 19 もの職種があり、中には「エルカトーレ」というイタリアにしかないユニークな職種も導入されているとのことです。この「エルカトーレ」は、それぞれの専門性を活かした「行動療法」を担当する職種のようなのですが、資格制度によってその役割と地位が明確になっていることを知りました。ただ、人間的接触が基本となる精神医療の分野では、職種を超えた「全人格的関わり」が必要となる局面が必ずあるはずですから、細分化された職種構造のもとで、この点がどのように調整・解決されているのか、さらに知りたいと思いました。ブルチ先生との間で話題となった、患者・家族に担当医師の携帯電話番号を教えるかどうかという問題も、ルール・マニュアルと「全人格的関わり」との関連として、同様の配慮を要する問題でしょう。門外漢なりに、考え続けてみたいと思います。

(4) 今後の展望:ダルコ・ブルチ両先生はじめ、インタビューに応じて下さった方々から、イタリアの地域精神医療が直面している問題点についても率直なお話を聞くことができました。各精神保健センターの管轄範囲の拡大、精神医療に投入される財源の縮小、医師・看護師などスタッフの削減、ハンディキャップを抱えた人々に対する寛容度の低下、などです。バザリア改革以前の状況に逆戻りすることはあり得ないこと、また目下のところ医療サービスの大幅な低下をもたらしていないとは強調されましたが、懸念すべき問題であることは、皆さんが認めておられました。この点については、self-help 組織の活動を充実することが重要だと強調された、ブルチ先生の応答が印象的でした。お金のやりとりを伴わない相互扶助的関係をより強めていくと考えてよいでしょうか。またこれとの関連で、イタリアで有力な社会セクターとなっている協同組合については、それが精神医療、とくに患者の生活・就労支援の面で極めて重要な役割を果たしている点は認めつつも、事業体の経営的論理が優先される弊害も見逃せないという指摘も興味深いものでした。今回のツアーを通して、農業を事業内容とする社会協同組合を今後追跡してみたいと強く思うようになりましたが、ブルチ先生の上記のコメントは、重要な論点になるものと思います。今後の私の勉強に活かしていきたいと思います。

最後になりますが、豊富な実践を重ねてこられたツアー参加メンバーの皆様からも、多くのことを教えていただきました。有り難うございました。また、学びの多いツアーを企画・実施して下さいました事務局の仁木守さんにも、心から御礼を申し上げます。



南ヴェローナ精神保健センター



self-help 活動組織にて

* 2019 年第 13 回イタリア地域精神保健視察研修ツアーを実施して

事務局 仁木 守

5 月 13 日月曜日、イタリアは例年にない異常気象という情報の中ツアーは始まりました。早朝 8 時成田空港に総勢 13 名が集まりました。本来 14 名なのですが 1 名はトランジット場所のスイス・チューリッヒで合流予定なのです。成田空港では会議室に集まり団長である協会の長野理事長の挨拶で結団式を行い、意義のある研修と無事の帰国を誓いました。

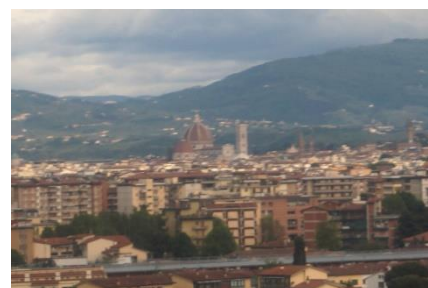
定刻通りスイス航空チューリッヒ行は出発、12 時間後チューリッヒ国際空港に到着シェンゲン協定国であるスイス(スイスは EU には加盟していない)で EU の入国審査が行われ無事入国しました。ここで 14 番目の参加者が合流、総勢 14 名となりました。そして 1 時間 40 分後フィレンツェに向け出発しました。イタリアの北に接するスイスからは 1 時間 10 分でフィレンツェなのですが、途中にはアルプス山脈があります。峰と峰の間を抜けていくような感じで、峰の高さと同じくらいの高さで飛んでいるような感覚でしたが、山脈を抜けると間もなくフィレンツェの街並みが見えてきて、大聖堂などを横目で見ながらフィレンツェ空港に到着しました。ここで通訳佐藤さんと合流しました。例年は 11 月開催でフィレンツェ到着は 20 時頃ですが、今年は 5 月でフィレンツェ到着が 19 時のため未だ外が明るく(この時期日の入りは 20 時 30 分頃)何故か徳をしたような気分になりました。それから 1 時間 30 分をかけて専用バスはアレッツォの何時ものホテル「コンチネンターレ」に到着しました。そしてチェックインしてもまだマーケットに買い出しに行く余裕さえありました。

14 日火曜日、今日から本格的に視察研修が始まります。今日はアレッツォです。アレッツォはトスカーナ州(州都はフィレンツェ)にあるアレッツォ県の県都で人口 9 万 8000 人のコムーネ(自治体:市)です。9 時過ぎにダルコさん(日本に 3 度お招きした元アレッツォ精神保健局長)がホテルに到着、今日の予定が話されました。最初にアレッツォ精神病院跡地の視察、次に総合病院の精神科緊急ユニットの訪問、そして若者向けグループホームの訪問、最後に精神保健センター訪問と決まりました。※訪問先での説明や感想は参加者からの報告に委ねることとします。

アレッツォ精神病院はバザリア法制定とともに新規患者受け入れを終了し後に閉鎖されました。現在多くの建物はシエナ大学アレッツォ校の校舎として使われており、一部は精神保健局や幼稚園などに活用されていますが、活用が未定で朽ちている建物もいくつか見られます。アレッツォ総合病院は精神病院跡地のすぐ隣にあり、扇形をした 3 階建ての超近代的なビルです。その 2 階に精神科緊急ユニットはあります。そしてアレッツォ精神保健センター長である精神科医のトラヴィ医師の説明を受けました。次の訪問場所若者向けグループホームは総合病院から徒歩 5 分程度で精神病院跡地の一角にあります。リハビリテーション専門員のマウリツィオ・サウロ氏から説明を受けました。数年前イタリアでは法律で司法精神病院の閉鎖が決まり、このグループホームは司法精神病院退所者のため対応できる部屋を増設しましたが、現在まで司法の判断が下りず入



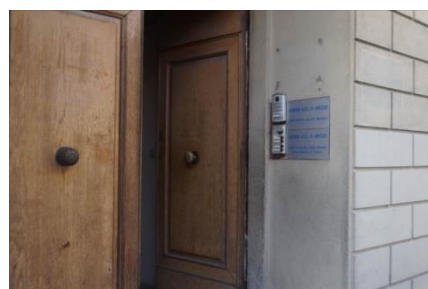
アルプス山脈越え



フィレンツェ大聖堂と鐘楼



アレッツォ精神科緊急ユニット



アレッツォ精神保健センター

居者はいないとの事でした。最後は精神保健センターです。アレッツォの中心、聖フランチェスコ教会のすぐ横にあります。2階の会議室で白衣を脱いだトラヴィセンター長に説明して頂きました。初日の研修はこれで終了、夕食の場所は映画「ライフ・イズ・ビューティフル」の舞台となったグランデ広場に面したレストランで、ダルコさんを囲んでいただきました。

15日水曜日、今日はアレッツォから電車でローマ方向に1駅カスティリオン・フィオレンティーノに向かいます。10分程で到着、今日の訪問はヴァルディキアーナ地域という医療区分の場所で、カスティリオン・フィオレンティーノと隣駅のカミチア・コルトナ周辺が含まれます。駅にはヴァルディキアーナ地域の精神保健センター長ボルゲーシ医師が出迎えてくださり、カスティリオン・フィオレンティーノ保健の家に向かいました。保健の家は総合病院に準じた場所で地域総合病院の役割を果たしているところで、中には精神科の役割を持つ精神保健センターも入っています。そして会議室でボルゲーシセンター長から説明を受けました。その後、社会協同組合 koine が運営する高機能デイケア・グループホーム「カーサ・デ・ピノキオ」を見学、リハビリテーション専門員のアントネーラさんに説明して頂きました。また隣接する自立能力の高い人向けデイケア「ヴィータ」も見学しました。次はコルトナ地区に移動、ギルファルト要塞を改修しながら文化的展示や営農活動をし、障がい者就労に結び付けている場所を見学、そこのレストランで食事をしました。コルトナの中心部市庁舎前に移動し暫しの観光、カムチア・コルトナ駅からアレッツォ駅に戻りました。ホテルで荷物を受け取りアレッツォ駅に戻り約1時間乗車しフィレンツェに移動しました。ホテルにチェックイン後、フィレンツェのドゥオモ、鐘楼などを眺めながら夕食の場所レストラン ACCADI に向かいました。フィレンツェに行くと必ず立ち寄るレストランですが、ここのオーナーシェフの弟さんが、協会の長野理事長が勤務する公益財団法人正光会に勤務しているという繋がりを利用していただいております。ひと時のフィレンツェを堪能し、翌日 16日午後には次の訪問地トリエステに向かいました。

17日金曜日、トリエステ研修の始まりです。先ずホテルからドーミオ精神保健センターへ、このセンターはトリエステ中央駅から車で20分程の場所にあり、4つあるセンターの中で中心地区から一番離れたセンターです。ここでは看護師のフェデリコさんに説明して頂き館内見学をしました。次にマッジョーレ総合病院の中にある精神科緊急ユニット(SPDC)を視察し、主任看護師と若い看護師さんの2名から説明を受けました。その後、サンジョバンニ地区(トリエステ精神病院跡地で現在は公園になり多くの建物はトリエステ大学の校舎になっており、その他精神保健局や教会、劇場、グループホーム、社会協同組合の事務所、レストランに活用されております。一部朽ちたまま利用待ちの建物もあります。)に移動、社会協同組合が運営するレストラン「イル・ポスト・デッレ・フラゴレ」で昼食を食べ、暫



保健の家



ヴィータにて



ギルファルト要塞



ACCADIにて



トリエステ SPDC 入口

しサンジョバンニの旧精神病院の建物を見学しました。午後は「リハビリテーションと住居のユニット」で責任者のアルツーロさんから、次に訪問した「統合と社会振興のためのスポーツ活動ユニット」では精神障がい者の家族でもある組織の会長さんから説明を受けました。

18日土曜日、チェックアウト後ヴェネチア・メストレに向かいました。残念ながら雨となってしまいましたが、ホテルにチェックイン後、メストレ駅からヴェネチアに電車移動、船に揺られてサンマルコ広場へ、各々ヴェネチアの休日を楽しめました。

19日日曜日、チェックアウト後ヴェローナに向かいました。この日も朝から雨。ホテルにチェックイン後、ヴェローナ中心のブラ広場へ、アリーナを眺めながら昼食、その後雨の中、アリーナ見学やジュリエットの家見学などをしてヴェローナの休日を楽しみました。



ホテル会議室にて



南ヴェローナ精神保健センター



ブルチご夫妻と共に

入る公営アパートに向かいました。これで全ての研修が終わりました。夕食はブルチ先生と奥様を迎えてアリーナ近くのレストランでの最後の晩餐となりました。

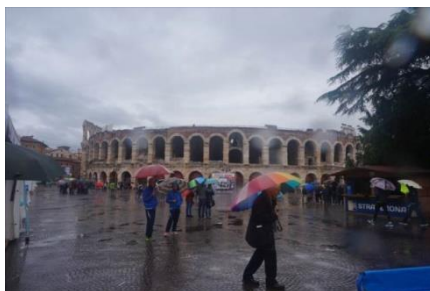
21日火曜日、ヴェローナ空港からミュンヘン経由で帰国の途に就く予定でヴェローナ空港へ、でもそこにはドラマが。タクシーで空港に着くと先に着いていた参加者から「飛行機キャンセルになっている



リハビリと住居ユニットの作業所



雨のサンマルコ広場



雨のアリーナ



セルフヘルプの入るアパート

20日月曜日、最後の研修です。9時過ぎブルチ先生がホテルにお見えになりました。これからホテルの会議室でレクチャーが始まります。ブルチ先生は毎年各種データを交えながらお話しいただきますが、そのデータは常に更新されており、今年も更新されたデータの下でのお話でした。南ヴェローナ精神保健センターに向かう前に昼食の話になり、センター前の学食でと提案すると先生があそこは不味いからホテルで済ませてから行きましょう。という事でホテルでの昼食を済ませ、ブルチ先生の車とタクシー分乗でセンターに向かいました。センターでは薬の保管場所や厨房、デイケアの活動場所などを見学、その後お話を伺いました。再度車に分乗し最後の研修場所である自助活動組織「セルフヘルプ・サンジャコモ」のグループホームと事務所の

Partenze / Departures				
VOLO / FLIGHT	DIST / TO	SCHED	EXP	
AZ1492	ROMA FCO	11:05	11:05	Cancelled
V71778	OLBIA	11:50	11:50	Boarding
VY9863	LONDON LGW	11:50	11:50	Cancelled
V71533	PALERMO	12:00	12:00	Cl-in Open
HV5466	AMSTERDAM	12:40	12:40	Cancelled
LH9463	MUNICH	13:25	13:25	Cancelled
V71743	CATANIA	13:30	13:30	
AC9655	FRANKFURT	14:00	14:00	Cancelled

よ。ストだって！」と思いきもかけない言葉が……。空港の中に入りボードを見るとミュンヘン行きは「キャンセル」と出ているではありませんか。それから旅行社と連絡を取ったりして、4 時間後やっと宿泊するホテルが決まり、タクシーでホテルへ、ホテルは旅行社の支払いで明朝は日本語ガイドと車を用意していただけるという事になりました。翌日から仕事の予定が入っていた皆様には大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。そして 22 日水曜日、予定通り日本語ガイドの案内で再度ヴェローナ空港へ、今日は予定通りミュンヘン行きが出発、ミュンヘン経由で羽田空港に 23 日木曜日、予定より 1 日遅れで帰国しました。

ご参加いただいた皆様、帰国が遅れたことをはじめ、現地では想定外の事が色々あり、ご迷惑をおかけしたことも多かったかと思いますが、研修が皆様の今後の活動に少しでもお役に立てるようでしたらとても嬉しいことです。協会ではこれからも各種セミナー・研修ツアーを企画してまいりますので、是非今回に懲りず、またご参加いただけますよう宜しくお願いします。今回は大変有難うございました。

* 事務局からのお知らせ

○ ～故仁木美知子さんを偲んで～

リフレッシュセミナー in 東京 2019 のご案内

交流促進協会の活動に命がけで取り組んでこられた、仁木美知子前理事長の一回忌を迎えました。「多くの日本の実践家に海外のすばらしい取り組みに触れていただき、また、それぞれがつながり、日本の精神保健医療福祉が少しでも良くなるように」という想いを引き継ぎ、未来につなげることが何より大切なことだと考え、「偲ぶ会」をリフレッシュセミナーとして開催させていただきます。

ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時 令和元年 6 月 29 日(土) 14:00～18:00

会費 1000 円

会場 ハロー会議室 上野駅前 RoomA

東京都台東区東上野 3-37-9 かみちビル 5 階(1 階「定食やよい軒」)

懇親会 19:00～ 会場未定(会費 5000 円程度を予定)

※参加のお申し込みは、メールでの受付とさせていただきます。

受付アドレス ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

所属または住所、氏名、連絡先(携帯番号)記載の上、お申し込み下さい。



—編集後記—

第 13 回目のイタリア地域精神保健ツアーにご参加くださった皆さま、お帰りなさい。14 名の皆さまにご参加いただけたことを嬉しく思います。また、岩本さんには、帰国されて間もなく、お疲れのところ寄稿いただきありがとうございました。ツアーにご参加くださった皆さんからのイタリアの情報に触れ、その度に新しい発見があります。また、ダルコ先生とブルチ先生がお元気なご様子で何よりです。改めて、一度は訪ねてみたいと感じています。(m.shiida)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119